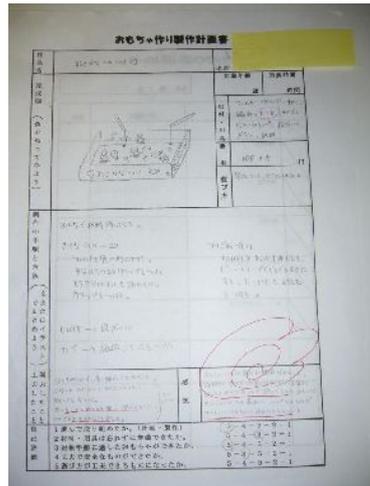


題 材 名	遊び道具を製作して幼児と遊ぼう		
内容・項目	A - (3)		
指導時間	9 時間		
題材のねらい (題材の特徴)	<p>本題材では、「生徒が幼児の生活に関心を持ち、課題をもって幼児とふれあうための遊び道具をつくり、一緒に遊ぶなどのふれあい体験を通して、幼児への理解と関心を高めるとともに、幼児と適切にかかわることができるようにすることをねらいとしている。</p> <p>遊び道具の製作に当たっては、身近な材料を活かして、自分もっている技術をつかって幼児の発達段階を考慮した遊び道具を製作させる。その中で、「幼児の体力や手先の動きに合った安全なもの」「興味をひくためにカラフルな色彩を取り入れる」「幼児が繰り返し遊べるもの」「短時間でも製作できるもの」など条件を与え、少人数のグループで考えさせ、計画的に活動させる。</p> <p>ふれあい体験では、製作した遊び道具をもってグループ単位で教室に入り、幼児に遊び方やルールを説明し、幼児の反応に対応し、ふれあう。その中で、幼児の活動の様子を観察・理解する。</p>		
学習の流れ (展開の工夫)	時 間	指導項目	主な指導内容
	1 時間	・ 遊び道具製作の計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年や一昨年の作品を提示し、「どんな材料でどんな遊び道具を製作する」かをグループで話し合わせる。【学ぶエネルギー】 【かかわり】【意思決定能力】 ・ 製作グループは、活動や話し合いに参加しやすいように4人前後を基本とさせる。 ・ 製作計画書を記入し、9時間の学習の見通しをつかませ、活動の意欲をもたせる。【学ぶエネルギー】
	4 時間	・ 遊び道具の制作をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの製作役割を決め、計画的に製作を進めさせる。 ・ 製作過程で問題が生じたときには、グループで話し合いをさせる。生徒の話し合いで解決策が見いだせなかったときには、教師も話し合いに参加し、助言をする。【かかわり】 【意思決定能力】 ・ 試行錯誤の結果、始めの計画でうまく製作できないときには、材料や形の変更も認める。 ・ 1時間ごとに振り返りカードに記入させ、次時への見通しをもたせる。【学ぶエネルギー】
	2 時間	・ ふれあい体験をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の3歳から6歳までの教室にグループごとに入り、1時間保育士さんと幼児とともにすごさせる。 ・ 製作した遊び道具を紹介させ、幼児の興味や関心を高めながら、幼児とかかわらせる。【かかわり】
	2 時間	・ 体験のまとめとお礼の手紙を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい体験の様子や学んだことを新聞形式でまとめさせる。【意思決定能力】 ・ お世話になった保育所の保育士さんに体験から学んだことなども含めたお礼の手紙を書く。【かかわり】

題材の紹介
と作品例



おもちゃ作り計画書

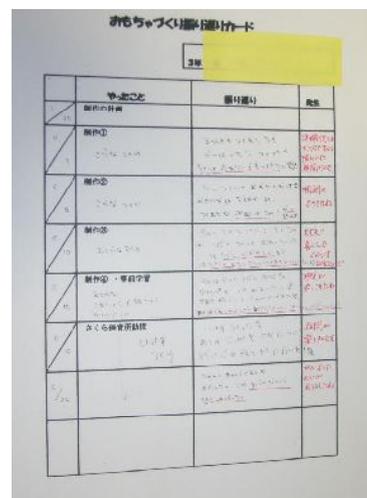
授業の終わり2・3分で振り返りを書かせることで、今後の見通しを立たせた。生徒の困っていることなども把握でき、アドバイスの場としても活用できた。

また、計画の時間で完成できないグループについては、進んで昼休みや放課後の少しの時間を活用して、訪問日までには、自分たちの思い描いていた遊び道具を完成させていた。

作品名・完成図・対象年齢
材料・用具・遊び方・製作の
手順と方法をグループで細かく話し合わせることで、短時間で、目的のものが完成できるように計画させた。

材料においても、学校で準備できるものとグループで準備するものを説明し、協力して準備するよう指導した。

また、ラップの芯のように、少人数では集められないものに関しては、クラスに呼びかけさせた。



おもちゃづくり振り返りカード



生徒作品
作品名「おさかなつり」



訪問のまとめ

準備・材料等

- ・おもちゃ（遊び道具）製作計画書・振り返りカード・まとめ用ワークシート
- ・手紙用ワークシート

[本題材を考案するに当たって参考にしたもの]

- ・技術・家庭ノート 家庭分野 生活の自立と衣食住・家族と家庭生活 正進社
- ・第48回 関ブロ 茨城大会 第7分科会 家族と家庭生活 指導・評価計画